

## 基幹公共交通の機能強化及び、バス路線網再編に係る検討状況

平成 26 年 11 月に基幹公共交通・バス路線網再編合同部会を開催し、基幹公共交通の機能強化とバス路線網再編に関する進捗状況等について協議

### ● 第 1 回基幹公共交通・バス路線網再編合同部会（H26.11.6 開催）

基幹公共交通の機能強化・バス路線網再編に関する取り組み状況、熊本都市圏都市交通マスタープランの概要、今後の取り組み、熊本駅東口のバスターミナル整備、地域公共交通網形成計画について検討。

#### 【 部会での主な議論 】

##### 1. 基幹公共交通の機能強化・バス路線網再編に関する取り組み状況

○バス運行に関する国庫補助の要件緩和について

- ・これは、ゾーンバスシステムを導入した際に支線（フィーダー路線）に該当する部分の輸送人員が国庫補助要件を下回り、国庫補助を受けることができなくなる事態を回避するために国に提案してきたこと。
- ・この件については、国交省が熊本をモデルとして財務省に提案している。熊本の取組が非常に大きな形になっている。

##### 2. 熊本都市圏都市交通マスタープランの概要

○パーソントリップ調査の分析概要とマスタープランについて

- ・パーソントリップ調査とは、平成 24 年に都市圏を対象に、人の 1 日の移動内容について調査したもの。現在、調査結果を基に平成 47 年の都市圏の交通体系を示す都市交通マスタープランを策定中である。
- ・高齢者の方の中には、例えばごみを出す際に車を使い、買い物などには車を使わなくなるような現象が起こっている。

##### 3. 今後の取り組み

○バス路線網の再編について

- ・バス事業は厳しい状況にあり、内部補填も限界に来ている。各社歴史があるなかで単独で再編をしようとしても不可能。都市バスの役割や仮に 1 社だった場合どうやってムリ・ムダ・ムラを改善するのかということ、市と連携しながらトータルで考えていかなければならない。
- ・バス交通のあり方検討協議会のときから都市バスを中心とした一元的な運行管理体制のあり方について議論が続いている。一元的な運行管理体制という名前が出ているが、これは 1 社体制という意味ではなくこれまでの無駄を省いて効率的に運行すること。

#### 4. 熊本駅東口のバスターミナル整備

##### ○バスターミナルのあり方について

- ・公共交通の考え方は基本的に「市民や県民の生活の中での公共交通」という考え方になっているが、観光の側面も捉えた上で、熊本駅は市民等の利用のみではなく外からの利用者も迎え入れて欲しい。

#### 5. 地域公共交通網形成計画 ※詳細は後ほど個別に説明

##### ○地域公共交通網形成計画の概要等について

- ・「熊本市公共交通協議会」をベースとした法定協議会を組織し、平成27年度末の策定を目指していく。計画区域は、熊本都市圏都市交通マスタープランで広域性が担保されるという考えの基、熊本市域を想定。
- ・形成計画の中に盛り込む「地域公共交通再編事業」のイメージを国交省が作成しているが、乗り継ぎの向上・拠点エリアのネットワークの形成・乗換拠点の設定・コミュニティバスによる交通空白解消、デマンドタクシーの導入などは熊本市が取り組んでいる内容であり、このイメージは熊本市を参考に作成されていると感じる。